

## 海外日本語教師 **さくら基礎** 研修

2018（平成30）年度用

### 申請要領

#### 1. 趣旨

本プログラムは、さくらネットワークメンバーの機関・団体に所属し、日本語教授経験が短く日本語運用力の一層の向上を必要とする外国人日本語教師を対象に、教師として必要な日本語運用力の向上を目指し、また日本の社会や文化に対する理解を促す短期間の集中研修を実施するものです。

#### 2. プログラム概要

##### (1) 期間

2018年5月29日～2018年7月5日（予定）

##### (2) 実施場所

国際交流基金日本語国際センター（埼玉県さいたま市）

##### (3) 研修内容

###### ア 授業

###### （ア）日本語

教師に必要な日本語運用力の向上を目指し、また日本語の知識（文法、ことばなど）を整理します。

###### （イ）日本文化

日本語の授業の中で扱うことができる日本文化について学んだり、ワークショップを行ないます。

###### イ 日本文化体験プログラム（例）

地方研修、ホームステイ、地域との交流（学校訪問等）、茶道等のデモンストレーション、演劇鑑賞等

##### (4) 採用予定人数

約15名

#### 3. 申請資格

さくらネットワークメンバーの機関・団体に所属している現職の日本語教師。申請は、研修参加候補者と雇用関係にある日本語教育機関が行ってください（個人からの申請は受け付けません）。

研修参加候補者の所属しているさくらネットワークメンバーが日本語教育機関以外の教師会や学会等の団体の場合も、申請は、研修参加候補者と雇用関係にある日本語教育機関が行ってください。ただし、その場合には、研修参加候補者がさくらネットワークメンバーの団体に所属していることの証明が別途必要になります。

参加候補者は、次に掲げる要件を全て満たしていなければなりません。

- (1) 申請機関と雇用関係にある日本語教師で帰国後も当該機関に引き続き勤務することが決定していること。なお、申請時点で日本語教師として教育実習中の方は対象としません。
- (2) 日本と国交のある国の国籍を有すること※台湾の方も申請可能です。
- (3) 日本の義務教育（小学校・中学校9年間）を修了していないこと。
- (4) 2017年12月1日時点で、満56歳未満であること。
- (5) 心身ともに研修プログラムへの参加に支障がない状態であること。
- (6) 2017年12月1日時点で、6か月以上の日本語教授歴を持つこと。（個人教授及び教育実習の期間は除きます。）
- (7) 申請時点で日本語能力試験N4若しくはN5、又は旧日本語能力試験3級もしくは4級程度の日本語能力を有していること（日本語能力試験の各レベルの認定の目安は日本語能力試験公式ウェブサイトの「N1～N5：認定の目安」<http://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html>を参照）。（\*）
- (\*）今までに日本語能力試験又は新日本語能力試験を受験したことのない参加候補者は、別紙の日本語力自己診断テストを自分で解いて、その採点結果を申請書の所定の欄に記入してください。記入がない場合は、申請が無効になる場合がありますので、注意してください。

※このプログラムでは、日本語能力試験 N3 合格以上の方は対象になりません。

- (8) 過去に国際交流基金日本語国際センターの「海外日本語教師長期研修」、「海外日本語教師短期研修」、「海外日本語教師さくら基礎/さくらネットワーク（基礎）研修」に参加していないこと。

#### 4. 支給内容

- (1) 宿舍（国際交流基金日本語国際センター内のシングルルーム、地方研修中は相部屋の可能性あり）
- (2) 研修期間中の食事（一部は現金支給）
- (3) 研修に参加するための必要経費（教材等を現物で支給）
- (4) 研修参加に必要な期間中の疾病及び傷害に対する海外旅行保険の付保（補償額の上限あり。既往症や歯科治療等は当該保険の適用対象外）。
- (5) [表 1]に掲げる地域にある申請機関に所属する方については、以下ア～ウを国際交流基金が負担します。  
[表 1]以外の地域、及び例外欄に記載のある国・地域に所属機関がある方は、参加者本人の負担となります。
  - ア 往復航空券（エコノミークラス割引運賃、居住地最寄り国際空港発着）
  - イ 出国税・空港利用税
  - ウ 研修補助費（来日中の自主研修に必要な公共交通機関の交通費等を現物で支給）

[表 1]

地域	例外の国・地域
アジア・大洋州地域	ただし、韓国、香港、マカオ、台湾、シンガポール、ブルネイ、オーストラリア、ニュージーランドを除く。
中南米地域	ただし、セントクリストファー・ネイビス、トリニダード・トバゴ、バハマ、バルバドスを除く
東欧地域	（例外なし）
中東・北アフリカ地域	ただし、アラブ首長国連邦、イスラエル、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、バーレーンを除く
アフリカ地域	（例外なし）

#### 5. 審査方針

当該国・地域や機関での日本語教師研修の必要性、候補者の日本語運用力、教授経験の他、候補者のポジション（専任/非専任）、影響力等の観点から審査します。

#### 6. 申請手続

- (1) 申請書類
 

申請書は全部で8ページです。申請書の原本とそのコピー1部を、それぞれホッチキス留めをして、提出してください。申請書に不備がある場合は、審査対象とはなりませんので注意してください。

なお、研修参加候補者の所属しているさくらネットワークメンバーが日本語教育機関以外の教師会や学会等の団体の場合には、研修参加候補者がさくらネットワークメンバーの団体に所属していることの証明書（さくらネットワークの団体が作成したもの）を申請書に添付してください。
- (2) 申請書提出先と締切
 

2017年12月1日（必着）までに、最寄りの国際交流基金海外拠点、又は日本国大使館や総領事館等の在外公館に提出してください。台湾は、（公財）日本台湾交流協会の台北事務所に提出してください。e-mailやFAXでの提出はお受けしていません。
- (3) 留意事項
  - ア 申請書はタイプ又は黒のボールペンを用いて活字体で記入してください。
  - イ 申請書は、「英語」や「原語」等の指示があるところ以外は日本語で記入してください。また、記入にあたって「候補者」部分は、候補者が他の人の助けは借りず、自分の力だけで書いてください。

ウ 提出された申請書類は返却いたしません。申請書を提出する際には、必ず申請者用のコピーをお手元に残しておいてください。

エ 申請書類提出後、記入内容に変更が生じた場合には、速やかにお知らせください。

## 7. 結果通知

- (1) 国際交流基金日本語国際センターで審査を行い、2018年3月中に結果を各申請者に通知します。
- (2) 採否理由等についてのお問い合わせには一切応じられませんので、ご了承ください。

## 8. 採用実績（参考）

採用15名／応募28名（2017（平成29）年度）

## 9. 研修参加者の義務

研修参加者は以下の条件を守らなければなりません。

- (1) 日本滞在中は日本国法令を守ること。
- (2) 研修に専念し、日本滞在を他の目的（宗教的あるいは政治的目的等）に利用しないこと。
- (3) 研修参加者は、集団での研修に参加することを前提に招へいされたことを理解し、国際交流基金日本語国際センターの指示に従って、全ての研修活動に参加すること。
- (4) 研修期間の開始より前に来日しないこと。
- (5) 研修期間中に一時帰国や第三国への旅行をしないこと。
- (6) 研修期間が終わり次第、直ちに帰国すること。
- (7) 家族を同伴しないこと。

## 10. 事業に関する情報の公開

- (1) 採用された場合、申請者・団体の名称、事業の概要等の情報は、国際交流基金事業実績、年報、ウェブサイト等において公表されます。
- (2) 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」（平成13年法律第140号）に基づく開示請求が国際交流基金に対してなされた場合には、同法に定める不開示情報を除き、提出された申請書類は開示されます。

## 11. 個人情報の取扱い

以下の内容を、申請機関から候補者にお伝えくださいますようお願いいたします。

- (1) 国際交流基金は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第59号）を遵守し、個人情報を取り扱う際には、適正な収集・利用・管理を行います。国際交流基金の個人情報保護への取組については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.jpff.go.jp/j/privacy/>

- (2) 申請書及び添付書類に記入された情報は、採否審査、事業実施、事後評価等の手続のほか、次のような目的で利用します。これらの個人情報の利用については、申請機関より候補者にもお知らせくださるようお願いいたします。

ア 研修参加者の氏名、性別、職業・肩書、所属先、事業期間、事業内容等の情報は、研修実施案内に公表するほか、国際交流基金の事業実績、年報、ウェブサイト等の公表資料への掲載、統計資料作成に利用されます。また、国際交流基金事業の広報のため、報道機関や他団体に提供することがあります。

イ 採用者の居住する国の日本国大使館・総領事館等の在外公館及び日本国外務省にも、査証発給のため、これらの情報を提供することがあります。

ウ 申請書、添付書類及び事業報告書・成果物などは、採否審査、事後評価等のため、外部有識者等の評価者に提供することがあります。提供する際、評価者の方には、個人情報の安全確保のための措置を講じていただくようにしています。

エ 事業終了後に、本件事業に関するフォローアップのためのアンケートをお願いする場合があります。

オ 記入される連絡先に、他の国際交流基金事業についてご連絡を差し上げることがあります。

- (3) 国際交流基金に提出された事業報告書・成果物などは、国際交流基金事業の広報のため、公開することがあります。

- (4) 研修実施のため、渡航手配や研修プログラムに協力を得る関係者(保険会社及びその代理店、航空会社、自治体等)に、必要な範囲で情報を提供します。
- (5) 本研修に応募された方は、上記目的での個人情報の利用に同意したものとみなします。

## 12. 問合せ先

日本語国際センター教師研修チーム Tel. +81-48-834-1182 Fax. +81-48-834-1170

e-mail: urawakenshu@jpf.go.jp

\*申請書のフォーマットは、次のウェブサイトから入手可能です。

<http://www.jpf.go.jp/j/program/index.html>

## 添付資料

日本語力自己診断テスト

## 申請書作成上の注意

### 全体的な注意事項

1. 申請書のフォーマットは、次のウェブサイトから入手可能です。申請書は全部で8ページです。  
<http://www.jpf.go.jp/j/program/index.html>
2. 申請書の原本及びそのコピー1部を、それぞれホッチキス留めをして、提出してください。申請書に不備がある場合は、審査対象とはなりませんのでご注意ください。
3. 最寄りの国際交流基金海外拠点又は日本国大使館や総領事館等の在外公館に提出してください。台湾は、(公財)日本台湾交流協会の台北事務所に提出してください。e-mailやFAXでの提出はお受けしていません。
4. 申請書の提出期限は2017年(平成29年)12月1日(必着)です。できる限り余裕を持って提出するようにしてください。
5. 提出された申請書類は返却いたしません。申請書を提出する際には、必ず申請者用のコピーをお手元に残しておいてください。
6. 申請書の受理通知を希望する場合は、はがきに返信用切手を添付の上、住所、氏名、プログラム名、受理通知を希望する旨を記載して、申請書に同封してください。国際交流基金海外拠点若しくは日本国大使館や総領事館等の在外公館の担当者が申請書を受理したことを証するために、署名して返送します。ただし、返信用切手が貼っていないもの、必要事項が記載されていないものは返送できませんので、ご注意ください。
7. 申請書類提出後、記入内容に変更が生じた場合には、速やかにお知らせください。

### 申請書記載要領

- (1) 申請書はタイプ又は黒のボールペンを用いて活字体で記入してください。
- (2) 申請書は、「英語」や「原語」等の指示があるところ以外は日本語で記入してください。また、記入にあたって「候補者」部分は、候補者が他の人の助けは借りず、自分の力だけで書いてください。
- (3) 日本語能力試験を過去に受験したことのない候補者は、必ず本申請要領に別添された「日本語力自己診断テスト」を自分で解き、その採点結果を申請書の所定の欄に記入してください。記入がない場合は、申請が無効になる場合がありますので、注意してください。
- (4) 研修参加候補者の所属しているさくらネットワークメンバーが日本語教育機関以外の教師会や学会等の団体の場合には、研修参加候補者がさくらネットワークメンバーの団体に所属していることの証明書(さくらネットワークの団体が作成したもの)を申請書に添付してください。

## “Sakura Network” Basic Training Program for Teachers of the Japanese-Language Application Instructions

For FY 2018

### 1. Objectives

This training program is designed to provide teachers of the Japanese language who belong to organizations of the Sakura Network, are early experience in teaching the Japanese language and are necessary to improve Japanese language skills further, with an opportunity to improve Japanese language skills and to deepen their knowledge of Japan.

### 2. Program Outline

(1) Duration

May 29, 2018 - July 5, 2018 (tentative)

(2) Course Venue

The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa (JFJLI, Urawa) (Saitama City, Saitama Prefecture)

(3) Description of the Program

a. Subjects

(a) Japanese language classes

This program aims to organize their knowledge (grammar, vocabularies etc.) and support their development of Japanese language that is necessary as teachers.

(b) Japanese culture

Participants will learn Japanese culture which could handle in their classes and hold workshops.

b. Cultural programs (example);

Field trips, home-stay program, visits to local schools, cultural demonstrations of tea ceremony and other traditional arts, theatre excursions, etc.

(4) Number of Participants

Approximately 15 teachers

### 3. Eligibility

Teachers of the Japanese-language belong to organizations of the Sakura Network. Applications should be submitted by overseas educational organizations, which provide Japanese language, have employment relationships with candidates. Applications from individuals will not be accepted.

If the organizations of the Sakura Network candidates belong, are not educational organizations that provide Japanese language(the Society for Teaching Japanese, the association of Japanese Language Teachers etc.), applications should be also submitted by educational organizations that have employment relationship with candidates. In that case, it is necessary to submit an additional document that certifies their employment with the organization they belong to. The following individuals are eligible to participate in the program:

- (1) Teachers who have an employment relationship with the applying organization where it is agreed that they will continue to work after completing this program. Individuals studying to become Japanese language teachers at the time of application are not eligible;
- (2) Individuals who are nationals of a country that has diplomatic relations with Japan;  
※Taiwanese are eligible to apply for this program.
- (3) Individuals who have not completed their compulsory education [ 9 years of elementary and junior high school] in Japan;
- (4) Individuals who are 55 years old or under as of December 1, 2017;
- (5) Individuals who are free from any mental or physical disabilities that would impede participation in the program;
- (6) Individuals with more than six months of experience in teaching Japanese language as of December 1, 2017

(private lessons not included);

(7) Individuals who have a proficiency in Japanese of Level N4 or N5 in the Japanese-Language Proficiency Test (JLPT), Level 3 or Level 4 of the old JLPT, or their equivalent at the time of application (please view the official website of JLPT <http://www.jlpt.jp/e/about/levelsummary.html> for a summary of the linguistic competence required for each level)(\*); and

(\* ) Candidates who have never taken the Japanese-Language Proficiency Test or the new Japanese-Language Proficiency Test are requested to answer the questions in the Japanese Proficiency Self-Check Test attached to the application form and to write down the test score in the designated column in the application. Please note that applications without the test score filled in may not be accepted.

**\*Those who have the ability of the level N3 (Level 2 of the old JLPT) or more of the Japanese Language Proficiency Test are not expected for the program.**

(8) Individuals who have not previously participated in “Long-Term Training Program for Teachers of the Japanese-Language”, “Short-Term Training Program for Teachers of the Japanese-Language” or “Sakura Network Basic Training Program for Teachers of the Japanese-Language” offered by JFJLI, Urawa.

#### 4. Benefits

- (1) Accommodations (a single room for each participant) within JFJLI, Urawa. In the case of field trips, participants may be required to share a room.
- (2) Meals during the program, partly in the form of cash allowances.
- (3) Expenses necessary for participation in official curriculum, such as teaching materials (in kind).
- (4) Overseas travel insurance with an upper limit on coverage (the insurance will cover the necessary expenses for sickness and in jury up to a limit on the policy. The insurance will not cover the expenses for a chronic or preexisting disease or injury contracted before arrival to Japan or dental care.).
- (5) For those participants whose institution is located in the regions listed in [Appendix] below, the Japan Foundation will provide the following:
  - a. Round-trip air tickets (discount economy class) to and from the nearest international airport from home residence;
  - b. Airport tax, foreign travel tax;
  - c. Set amount of in-kind allowances (to cover expenses necessary for participation in the program).

<Appendix>

Region	Exceptions
Asia Pacific	South Korea, Hong Kong, Macau, Taiwan, Singapore, Brunei, Australia, and New Zealand are considered exceptions.
Central and South America	Bahamas, Barbados, Saint Christopher and Nevis, and Trinidad and Tobago are considered exceptions
East Europe	(No exceptions)
Middle East and North Africa	United Arab Emirates, Israel, Oman, Qatar, Kuwait, Saudi Arabia, and Bahrain are considered exceptions
Africa	(No exceptions)

※For those participants whose institution is not located in the regions listed above, have to bear these expenses.

#### 5. Selection Policy

Screenings will be made in line with the following criteria: need for Japanese language teaching programs in candidate's region/country, candidate's Japanese language proficiency, teaching experience, teaching position (full-time or part-time) and influence in and out of the institution, etc.

#### 6. Application Procedures

(1) Application Documents

The application form consists of 8 pages. To apply, please staple the original application form and its copy then

submit respectively. An application missing any of the required elements will be considered incomplete and therefore ineligible for consideration.

When the organizations of the Sakura Network which candidates belong are not educational organizations that provide Japanese language (the Society for Teaching Japanese, the association of Japanese Language Teachers etc.), the documents that certify candidates belong to organizations of the Sakura Network should be attached with the application form. (The certifications should be issued by the organizations of the Sakura Network.)

## (2) Application Deadline and Place for submission

Applications and supporting documents must be submitted to the nearest Japan Foundation office or Japanese diplomatic mission no later than December 1, 2017. In Taiwan, applications must be submitted to the Japan-Taiwan Exchange Association, Taipei office. Application materials submitted by e-mail or by FAX will not be accepted.

## (3) Points to be noted

- a. Please type or write with a ballpoint pen in black ink, printing clearly in block letters.
- b. The entire application form should be filled out in Japanese if there are no specific directions, such as “in English” or “in Native Language”. Applicants are strictly requested to fill out the application form alone without assistance from others.
- c. Once submitted, Applications and Supplementary Information shall not be returned. Please make sure to set aside a copy for yourself.
- d. In case there are changes to the information provided in the application materials after the submission, please submit the notification as soon as possible.

## 7. Notification of Results

- (1) Applications will be screened by JFJLI, Urawa, and decisions will be announced in March 2018.
- (2) Please understand that we cannot answer enquiries in regard to the reasons for our decisions.

## 8. Number of Participants (Reference)

The number of participants in the previous year was 15 out of 28 applications.

## 9. Obligations

The participants are required to adhere to the following:

- (1) To observe the laws of Japan during their stay in Japan;
- (2) To devote themselves to the program and not to make use of their stay in Japan for any other purposes, such as religious or political purposes;
- (3) To understand that they are invited as members of a group, and to attend every activity of the program, under the direction of JFJLI, Urawa;
- (4) Not to arrive in Japan before the beginning date of the training program;
- (5) To not go abroad or return to their home country for the duration of the program;
- (6) To return to their home country as soon as the official period of the program expires; and
- (7) Not to be accompanied by their family members.

## 10. Disclosure of Information

- (1) Details of projects supported by the Japan Foundation (e.g., the name of the applicant, project descriptions) will be made public in the *Kokusai Koryu Kikin Jisseyo* (Detailed Annual Reports of the Japan Foundation), on the Japan Foundation's website, and in other public-relations materials.
- (2) When a request for information based on the "Law Concerning the Disclosure of Information Held by Independent Administrative Institution, etc." (Law No. 140 of 2001), is received, materials such as submitted application forms will be disclosed (unless stipulated by laws as not to be disclosed).

## 11. Handling of Personal Information

The applying institution shall inform candidates of the following:

- (1) The Japan Foundation handles personal information appropriately and in accordance with the "Law Concerning Access to Personal Information Held by Independent Administrative Institutions" (Law No. 59 of 2003). Details of the Japan Foundation's personal information protection policy can be reviewed at the following website:



<http://www.jpf.go.jp/e/privacy>

- (2) The Japan Foundation uses personal information on the application materials for screening, implementation, and evaluation procedures of the project. They may also be used for the following purpose:
- a. Details of participant's information, such as name, gender, job and position, affiliation, project duration, and project description, etc. are published in the Program Guide, the *Kokusai Koryu Kikin Jigyo Jisseki* (Detailed Annual Reports of the Japan Foundation), the *Annual Report*, on the Japan Foundation's website, in other public-relations materials. They are also used in compiling statistics and released to the press for publicity purposes.
  - b. There may be cases in which these information are released to Ministry of Foreign Affairs of Japan, Embassies or Consulates-General of Japan, etc. at the place where participant lives in order to apply for a visa.
  - c. There may also be cases in which copies of applications, including documents containing some personal information, are provided to outside consultants in order to facilitate the screening process and the evaluation of the results of projects.
  - d. There may also be cases in which the Japan Foundation sends questionnaires to the addresses written on this form after the project has ended.
  - e. There may also be cases in which the Japan Foundation uses the information written on the application form to contact the applicants to inform them of other Japan Foundation activities.
- (3) There may be cases in which the project reports and other related publication are released to the public.
- (4) Information is offered only to the extent necessary for the persons concerned who get cooperation to voyage arrangements or training programs (The insurance company and its agencies, airline companies, local governments, etc.)
- (5) It is considered that by applying to this program, participants agree to the use of personal information for the above-mentioned policy.

## 12. Contact

Teachers Training Section, JFJLI, Urawa Tel. +81-48-834-1182 Fax. +81-48-834-1170

E-mail: [urawakenshu@jpf.go.jp](mailto:urawakenshu@jpf.go.jp)

Please visit the following website to download the Application Forms.

<http://www.jpf.go.jp/e/program/list.html>

## Attachments

Japanese Proficiency Self-Check Test

## Instructions to Fill in the Application Forms

### General Instructions

1. Please visit the following website to download the Application Forms. The application form consists of 8 pages.  
<http://www.jpf.go.jp/e/program/list.html>
2. When applying, please submit this application form together with one copy collated and stapled, respectively.
3. Applications and supporting documents must be submitted to the nearest Japan Foundation overseas office or Japanese diplomatic mission. In Taiwan, applications must be submitted to the Japan-Taiwan Exchange Association, Taipei office. Application materials submitted by e-mail or by FAX will not be accepted.
4. Applications and supporting documents must be submitted no later than December 1, 2017. It's highly recommended to submit applications well in advance of the deadline.
5. The application form and the other related documents cannot be returned to the candidate under any circumstances. The applicant must be sure to keep one copy of the application for him/herself.
6. If an acknowledgement of receipt of the application is required, applicants should enclose a stamped, self-addressed postcard with the application, on which applicants should write as follows:  
"Name of the program: "Sakura Network" Basic Training Program for Teachers of the Japanese-Language. Please send acknowledgement of receipt of the application."  
The postcard will be returned with the signature of the officer-in-charge at the Japan Foundation overseas office or Japanese diplomatic mission to acknowledge receipt of the application. However, please note that a postcard that lacks the applicant's name, address, the name of the program, or the necessary postage stamp will not be returned.
7. In case of any changes to the information provided in the application materials after the submission, please submit the notification as soon as possible.

### Points to be noted

1. Please type or write with a ballpoint pen in black ink, printing clearly in block letters.
2. The entire application form should be filled out in Japanese if there are no specific directions, such as "in English" or "in Native Language." Applicants are strictly requested to fill out the application form alone without assistance from others.
3. If candidates have never taken the Japanese-Language Proficiency, they are requested to answer the questions in the Japanese Proficiency Self-Check Test attached to the application form and to write down the test score in the designated column in the application. Please note that applications without the test score filled in may not be accepted.
4. When the organizations of the Sakura Network which candidates belong are not educational organizations that provide Japanese language (the Society for Teaching Japanese, the association of Japanese Language Teachers etc.), the documents that certify candidates belong to organizations of the Sakura network should be attached with the application form. (The certifications should be issued by the organizations of the Sakura network.)

海外日本語教師 **さくら基礎研修**

2018 (平成 30) 年度用  
For Fiscal 2018

申請書

“Sakura Network” Basic Training Program for Teachers of the Japanese-Language  
Application Form

申請書を国際交流基金の海外拠点又は日本国大使館や総領事館等の在外公館にご提出ください。台湾所在の機関は（公財）日本台湾交流協会の台北事務所にご提出ください。国際交流基金本部・附属機関では海外からの申請を受け付けません。インターネットや e-mail による申請書の提出は受け付けません。申請書は、活字体でご記入ください。なお、申請書に記入される個人情報の利用目的については、申請要領の「11.個人情報の取扱い」をご覧ください。

Applications should be submitted to the Japan Foundation office in your country or Japanese diplomatic mission of Japan. In Taiwan, applications must be submitted to the Japan-Taiwan Exchange Association, Taipei office. The Japan Foundation Headquarters in Tokyo and affiliated organizations will not accept applications from overseas applicants. Applications will not be accepted through the Internet or by e-mail. This application form should either be printed or written using block letters. For details on the use of personal information included in the application form and attached documents, please see "11. Handling of Personal Information" in the Application Instructions.

国際交流基金日本語国際センター所長殿  
To the Director of the Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa

年 月 日  
Year Month Day

私は平成 30 年度海外日本語教師さくら基礎研修に下記の者を参加させたく申請いたします。  
I hereby elect the person named below to participate in the 2018-2019 “Sakura Network” Basic Training Program for Teachers of the Japanese-Language.

機関名 \_\_\_\_\_ 代表者署名 \_\_\_\_\_  
Name of Institution (Applicant) Signature of the Representative of the Institution

代表者氏名 \_\_\_\_\_  
Name of the Representative of the Applicant Institution

候補者が所属しているさくらネットワーク機関名 \_\_\_\_\_  
(申請機関がさくらネットワーク機関ではない場合) Name of member of the Sakura Network (if different from the applicant institution)

候補者 (以下は候補者が記入のこと)  
CANDIDATE (The following form should be filled in by the candidate.)

氏名 Name	漢字又はカタカナ In Kanji or Katakana	姓 Last Name	名 First Name				
	英語 In English alphabet						
	パスポートに記載の表記 Name as written on your passport in English alphabet						
性別 Sex	生年月日 Date of Birth	19 年 月 日 Year Month Day	年齢 Age	2017 年 12 月 1 日現在 As of December 1, 2017	国籍 Nationality		
連絡先 (ローマ字) Contact (in English alphabet)							
住所 Address							
Tel.		FAX			e-mail		

所属日本語教育機関名 Affiliated Institution		部門名 Faculty/Department/Program, etc.		地位 Position	専任/非専任 Full time or Part time	
漢字又はカタカナ In Kanji or Katakana					<input type="checkbox"/> 専任 Full time <input type="checkbox"/> 非専任 Part time	
英語 In English						
原語 In Native Language						
所属日本語教育機関住所 Address of Affiliated Institution						
Tel. <span style="margin-left: 200px;">FAX.</span>						
最終学歴 Last school attended	機関名 Name of institution				取得地 Location	
	取得年 Year of completion		学位 Degree conferred		専攻 Major	
学位取得論文タイトル（修士号、博士号を取得の場合には必ず記入してください） Thesis title (Required for applicants who have obtained their Masters or Doctoral degrees)						

日本で義務教育を修了しましたか？ Did you complete your compulsory education in Japan?	<input type="checkbox"/> はい Yes	<input type="checkbox"/> いいえ No
--	------------------------------------	------------------------------------

	期間 Term	総時間 Total Hours	機関名 Institution		使用教材 Textbook
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)				
日本語学習歴 Previous Japanese language study	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)				
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)				
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)				
日本以外での日本語 教師研修受講歴 Training programs for Japanese language teachers undertaken outside of Japan	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)				
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)				
日本語教授歴 Japanese language teaching experience  <b>合計 In total</b>  年      か月 Years    Months  <u>教授歴が 6 か月未満の方は申請資格がありません。</u>  <u>Those who more than six months of experience teaching Japanese language are eligible</u>	期間 Term	機関名 Institution	対象者 Students in class		使用教材 Textbook
			年齢 Age	レベル Level	
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)				
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)				
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)				
現在の担当科目 Japanese classes currently taught	科目名 Subject Taught	対象者 Students in class		担当時間数(週・年) Loading Hours Week/Year	使用教材 Textbook
		年齢 Age	人数 Number		
				週 (    ) 時間 (per week) 年 (    ) 時間 (per year)	
				週 (    ) 時間 (per week) 年 (    ) 時間 (per year)	
日本語以外の担当科目 Subjects currently taught aside from Japanese				週 (    ) 時間 (per week) 年 (    ) 時間 (per year)	
				週 (    ) 時間 (per week) 年 (    ) 時間 (per year)	

日本語能力試験 Japanese-Language Proficiency Test (JLPT)	受験年 Test Year	JLPT 取得級 Passing Grade (Level) <input type="checkbox"/> N1 <input type="checkbox"/> 1 級 <input type="checkbox"/> N2 <input type="checkbox"/> 2 級 <input type="checkbox"/> N3 <input type="checkbox"/> 3 級 <input type="checkbox"/> N4 <input type="checkbox"/> 4 級 <input type="checkbox"/> N5	認定番号 Certificate Number
日本語力自己診断テスト結果 Score from the Japanese Proficiency Self-Check Test attached to this application form	文字・語彙 Writing-Vocabulary  /25	読解・文法 Reading-Grammar  /40	合計 Total  /65
日本滞在歴 国際交流基金での研修を 含む Previous stay in Japan including Programs at the Japan Foundation  留学の場合は、所属機関 を明記してください。 If you have studied in Japan, be sure to specify the name of institutions.	期間 Term	日数 Days	滞在目的・受けたグラント・当センター研修等 Purpose; Grant Received, Training Programs at the Institute (if any)
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)		
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)		
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)		

**授業以外での日本語教育への貢献 Your contribution to Japanese language teaching outside of class activities**

授業以外での日本語教育への貢献があれば具体的に記入してください。(例：開発した教材、日本語教育についての学会・セミナー発表、日本語教師会等での活動歴等)

Please write in the space below, if you are making (or have made) a contribution to Japanese language teaching in your country outside of class activities (For example, teaching materials that you have developed, papers on Japanese language education that you have presented at academic conferences or seminars, your involvement in the Association of Japanese Language Teachers or other activities).

日本語の運用力について Your Japanese proficiency

自分に当てはまると思う項目全てに✓をつけてください。Please check ✓ all items that apply to your Japanese proficiency.

<p>聞く Listening</p>	<p>□幅広い話題の議論や専門の講義もあまり問題なく理解できる。 I have no difficulty understanding discussions about a wide range of topics and specialized lectures.</p> <p>□いろいろなトピックのニュース、映画の内容がほとんど理解できる。 I can understand most movies and TV news covering a variety of topics.</p> <p>□仕事や生活の場面でよく話題にのぼる話やテレビ番組の内容がだいたい理解できる。 I can understand most discussions on familiar matters regularly encountered in work and daily life, and the content of TV programs.</p> <p>□自分の仕事や生活に関してよく使われることばや表現を聞いて理解できる。 I can understand phrases and expressions frequently used in relation to my work and daily life when I hear them.</p> <p>□ゆっくり話してもらえば、自分のことや生活などに関してよく使われることばや基本的なことばが理解できる。 I can recognize basic phrases and familiar words concerning myself and daily life when people speak slowly.</p>
<p>読む Reading</p>	<p>□自分の専門に関する長い論文や複雑な小説の内容が理解できる。 I can understand the contents of complex novels and long essays related to my field of specialization.</p> <p>□書いた人の意見や立場がわかる記事やレポート、簡単な小説が理解できる。 I can understand articles and reports in which the writers express particular attitudes or viewpoints. I can understand simple novels.</p> <p>□身近な話題について書かれた、決まった形の文章や手紙が理解できる。 I can understand texts and letters that consist mainly of common everyday language and which relate to familiar topics.</p> <p>□短い、簡単な文が理解でき、必要なものや時間などの大事な情報を探することができる。 I can understand short, simple texts. I can find important, required information, such as time.</p> <p>□メニューやウェブサイトなどを見て、よく知っているものや人の名前、簡単なことばがわかる。 When I look at materials, such as menus and websites, I can understand familiar items and names, as well as simple phrases.</p>
<p>話す Speaking</p>	<p>□研究会などで専門的な話題や複雑な話題について論理的な構成で話すことができる。 At seminars and other events, I can talk about specialized subjects and complex subjects using a logical structure.</p> <p>□関心のある内容について、くわしく説明したり意見やその理由を言うことができる。 I can present detailed descriptions and my viewpoint, and give reasons for my opinions on subjects related to my fields of interest.</p> <p>□経験やこれからの予定、やりたいことなどを、基本的な接続のことばを使って説明することができる。 I can connect phrases in a simple way in order to describe my background, future plans and ambitions.</p> <p>□家族や周囲の人々のこと、これまでの経験などを簡単なことばや文で説明することができる。 I can use simple phrases and sentences to describe my family and other people around me, as well as my background.</p> <p>□自分やよく知っている人について簡単なことばで話すことができる。 I can use simple phrases to talk about myself and people I know well.</p>
<p>会話する (やりとり) Oral interaction</p>	<p>□人間関係に配慮しながら、様々な立場の人となめらかで自然な会話や議論ができる。 I can participate in conversations and discussions smoothly and naturally with people from various walks of life, with consideration for interpersonal relations.</p> <p>□いろいろな話題の会話に途中から入って、自分の意見を言ったり普通にやり取りができる。 I can enter unprepared into conversation on a variety of topics, presenting my own views and interacting normally with people.</p> <p>□日常生活の様々な場面で、家族、趣味、仕事など身近な話題の会話を続けることができる。 I can sustain conversations on familiar topics relating to my family, hobbies, and work, within various social settings in daily life.</p> <p>□自分のことや仕事などについて、簡単に具体的な情報のやりとりができる。 I can communicate simple and concrete information related to myself and my work.</p> <p>□相手がゆっくり話してくれれば、自分のことについて簡単なやりとりができる。 When the other party speaks slowly, I can participate in simple communication about myself.</p>
<p>書く Writing</p>	<p>□重要だと思ふ点を強調した複雑な内容を、読む人にわかりやすい構成にして、手紙や論文が書ける。 I can write letters and essays with a structure that highlights significant points, and which helps the recipient to understand complex content.</p> <p>□興味のあるいろいろな話題について、読む人にわかりやすく、くわしく説明したり自分の意見やその理由を書くことができる。 I can write clear, detailed texts on various subjects related to my interests, explaining my views and giving reasons to support my opinions.</p> <p>□自分の関心のある話題や旅行での経験や印象などを、短いがまとまった文章で書くことができる。 I can write short summaries on topics of personal interest, or descriptions of travel experiences and impressions.</p> <p>□簡単な内容の伝言や、友達への短い手紙を書くことができる。 I can write simple messages and short letters to friends.</p> <p>□誕生日や新年などの時、「おめでとう」「ありがとう」などの決まったあいさつのカードを書くことができる。 For occasions, such as birthdays and the New Year, I can write cards with specific greeting messages, such as "Congratulations" and "Thank you."</p>

**作文 Essay in Japanese**

日本語国際センターセンターで学びたいことは何ですか。日本語で書いてください。コンピュータを使わないで、ボールペンを使って、手書きで書いてください。書くときは、参考書を見たり、他の人の助けを借りず、自分の力だけで書いてください。

Please write what you would like to study at the Institute in Japanese This essay should be handwritten with a ball-point pen. The use of computers is not allowed. You are strictly requested to work alone without using any references or assistance from others.

国・地域名 Name of country/region		所属機関名 Affiliated Institution	
氏名 Name			

10

20




申請機関の概要 Outline of the Institution

できれば機関の紹介パンフレットなどを添付してください。

Please attach some general information on your institution (introductory brochure, etc.).

機関及び日本語コースの設立の経緯と歴史 History of the Institution and Japanese Language Course
日本語コースの概要（修学年限、週当たり授業時間数、学習者数等を記入してください。） Outline of Japanese Language Course (state the length of the course, hours of study per week, the number of students)
学年暦（授業の開始月、終了月及び学期区分を記入してください。） Term / Semester (state the beginning and end months of each term or semester)

学生の構成 Attributes of Students A か B のいずれかを選び、 <input type="checkbox"/> に印を付けてください。 Please choose A or B and check all appropriate boxes.
A. 学校教育の場合 Formal Institutional education <input type="checkbox"/> 小学生 Primary-school students <input type="checkbox"/> 中学生・高校生 Secondary-school students <input type="checkbox"/> 大学生 University/College students
B. 学校教育以外の場合 Education other than formal institutional education <input type="checkbox"/> 年少者(小・中・高校生を含む) Children <input type="checkbox"/> 成人(大学生含む) Adults

日本語教育スタッフ（候補者を含め全員記入してください） Staff of the Japanese Language Course, including the candidate.								
氏名 Name	地位 Position	専任・非専任 Full-time or Part-time	年齢 Age	日本語教授年数 Years of experience as a Japanese language teacher	対象者数 Number of students	週当たり時間数 Hours per week	年時間数 Hours per year	国際交流基金 研修参加年 Year of participation in JF Program, if applicable

海外日本語教師研修 推薦書

Training Program for Teachers of the Japanese-Language: Recommendation Form

候補者名 Name of the Candidate		
推薦者 Recommender	氏名 Name  現職 Position  所属機関 Institution	住所 Address  Tel.  FAX
<p>1. 推薦理由 (機関の責任者として、どのような方針のもとに候補者を推薦したか説明してください) As the representative of the institution, please explain on what basis you are recommending the candidate.</p> <p>2. 当研修に参加した場合に、あなたの機関に期待される効果 Please explain the outcome you expect the candidate's participation in this program to have on your institution.</p> <p>推薦にあたり、候補者は私が代表を務める機関と雇用関係にあり、研修会参加後もこの関係は継続することを確約いたします。 On this recommendation, I hereby declare that the candidate is an employee of our institution, and he/she will continue to work at the institution upon his/her return to our country.</p> <p style="text-align: center;">                 日付 <span style="margin-left: 150px;">署名</span>                  Date <span style="margin-left: 150px;">Signature</span> </p>		

・ 推薦書は、日本語または英語で記入してください。採否審査のため、この推薦書を外部有識者等に提供することがあります。  
Please fill in this recommendation form in Japanese or English. In some cases, this recommendation form may be provided to outside consultants during the screening process.

かいがい に ほ ん ご きょうしけんしゅうしんせいしよふぞく  
**海外日本語教師研修申請書付属**

Attachment of application form for  
training programs for teachers  
of the Japanese-Language

に ほ ん ご りよくじ こしんだん  
**日本語力自己診断テスト**  
Japanese Proficiency Self-Check Test

これはあなたの日本語力を正しく測るためのテストです。

- \* 問題用紙の最初にある注意を守ってやってください。
- \* 辞書や教科書を見ないで、一人でやってください。
- \* テストを受けるのは一回だけです。

正しいテスト結果でないことがわかった場合、採用されていても取り消  
されることがあります。

もんだいようし  
**問題用紙**  
Question Sheet

ちゅうい  
**注意** Instruction

- (1) 辞書じしょや教科書きょうかしょを見ないで、一人でやってください。

You are strictly requested to work alone without using any dictionaries and references.

- (2) 問題は、「文字・語彙」もんだい もじ ごい(p.3～p.5)と「読解・文法」どっかい ぶんぽう(p.6～p.8)があります。

The test consists of “Writing - Vocabulary” (p.3 ~ p.5) and “Reading - Grammar” (p.6 ~ p.8)

「文字・語彙」もじ ごいは 15 分い以内、「読解・文法」どっかい ぶんぽうは 20 分い以内に問題もんだいに答こたえてください。

The time limit is 15 minutes for the “Writing - Vocabulary” test and 20 minutes for the “Reading - Grammar” test.

- (3) 答こたえは解答用紙かいとうようし(p.9 と p.10)に書いてください。「文字・語彙」もじ ごいと「読解・文法」どっかい ぶんぽうの解答用紙かいとうようしがそれぞれ1まいずつあります。

Write down your answers on the answer sheet (p.9 and p.10), one page each for the “Writing - Vocabulary” test and the “Reading - Grammar” test.

- (4) ぜんぶお終わったら「解答」かいとう(p.12 と p.14)を見て、自分で採点じぶん さいてんしてください。「文字・語彙」もじ ごいは 25 点満点てんまんてん、「読解・文法」どっかい ぶんぽうは 40 点満点てんまんてんです。

Check your answers on your own using the “Answer” sheets (p.12 and p.14) after completion of the test. The full score is 25 points for the “Writing - Vocabulary” test and 40 points for the “Reading - Grammar” test.

- (5) 採点さいてんしたら、点数てんすうを申請書しんせいしょ4 ページに書いてください。

Calculate your test score and write it down in the space on the second page 4 of the application form.

もじ ことば ぶん  
文字・語彙 Writing – Vocabulary (25点 15分)

もんだい  
問題Ⅰ \_\_\_\_\_ のことばは どう読みますか。1・2・3・4 から いちばん いいものを一つ えらびなさい。(1×6)

れい にちようび  
(例) 日曜日に 洋服を 買いました。

洋服 1 よふく 2 ようふく 3 よそう 4 ようそう

問1 (1)台風は、いま、日本の (2)東にあります。

(1)台風 1 たいふ 2 たいふう 3 だいふ 4 だいふう

(2)東 1 ひがし 2 にし 3 きた 4 みなみ

問2 (1)姉と いっしょに (2)旅行へ 行きました。

(1)姉 1 あに 2 あね 3 おとうと 4 いもうと

(2)旅行 1 りょうこ 2 りよこ 3 りよこう 4 りょうこう

問3 おばあさんは (1)近くに すんで いますから、まいにち (2)会えます

(1)近く 1 はやく 2 ほそく 3 ひろく 4 ちかく

(2)会えます 1 みえます 2 いえます 3 あえます 4 かえます

問題Ⅱ \_\_\_\_\_ のことばは <sup>かんじ</sup>漢字を つかって どう書きますか。  
1・2・3・4 から いちばんいいものを一つえらびなさい。(1×5)

(例) パーティーの りょうりは おいしかった ですね。

りょうり 1 食事 2 食物 3 飲物 4 料理

問1 ひるごはんを 食べたら、先生の (1)けんきゅうしつに (2)しつもんに 行きます。

(1)けんきゅうしつ 1 教研究室 2 教学院 3 研究室 4 大学院

(2)しつもん 1 話題 2 質問 3 出席 4 聞分

問2 友だちに (1)あかい ペンを (2)かりました。

(1)あかい 1 青い 2 赤い 3 白い 4 黒い

(2)かりました 1 買りました 2 貸りました 3 変りました 4 借りました

問3 ここで (1)まってください。

(1)まって 1 時って 2 持って 3 特って 4 待って

問題Ⅲ \_\_\_\_\_ の ところに 何を 入れますか。1・2・3・4 から いちばん いい ものを一つ えらびなさい。(2×3)

(例) テレビの \_\_\_\_\_ の 中で スポーツが いちばん すきです。

1 ひつよう 2 よやく 3 よほう 4 ばんぐみ

問1 みなさん、このかみを 1まい \_\_\_\_\_ とってください。

1 まで 2 ずつ 3 しか 4 ごと

問2 明日は <sup>あした</sup> テストが あります。\_\_\_\_\_ 勉強して います。

1 それで 2 それに 3 それでも 4 それから

問3 わたしの 先生は \_\_\_\_\_ 人です。

1 ねむい 2 きびしい 3 みじかい 4 にかい

問題Ⅳ \_\_\_\_\_ の <sup>ぶん</sup> 文と <sup>おな</sup> だいたい 同じ いみの 文は どれですか。1・2・3・4 から いちばん いい ものを一つ えらびなさい。(2×2)

(例) きのうは 先生の おたくに うかがった。

- 1 きのうは 先生に わからないことを 聞いた。
- 2 きのうは 先生に ごちそうに なった。
- 3 きのうは 先生の <sup>いえ</sup> 家に行った。
- 4 きのうは 先生に しかられた。

問1 A:「あさって、やすませて いただけませんか」

B:「あさってですか。 かまいませんよ。」

- 1 休んでは こまりますよ。
- 2 休んでも いいですよ。
- 3 休まないで ください。
- 4 休まないほうが いいですよ。

**問2** A:「日本に いる 間に どこに 行って みたいですか。」

B:「きかいが あれば、北海道ほっかいどうが いいですね。」

- 1 北海道には 行ったことがあるから 行かなくていい。
- 2 北海道には 行きたい ところがあるから 行くつもりだ。
- 3 北海道に 行きたいが、行けるかどうか わからない。
- 4 北海道に 行きたいので、きかいを しらべている。

**問題V** つぎの(1)、(2)の ことばの つかいかたで いちばん いい ものを したの 1・2・3・4から 一つ えらびなさい。(2×2)

(例) おおい

- 1 日本には おおい 外国人が すんでいます。
- 2 ここは 車が おおくて あるけません。
- 3 きょうは おおく つかれました
- 4 わたしには おおいの こどもが いて たいへんです。

**問1** このあいだ

- 1 このあいだ、あめが ふります。
- 2 このあいだ、あめが ふっています。
- 3 このあいだ、あめが ふりそうです。
- 4 このあいだ、あめが ふりました。

**問2** おかげさまで

- 1 A:「こんにちは」  
B:「おかげさまで、こんにちは」
- 2 A:「おひさしぶりです」  
B:「おかげさまで、ひさしぶりです」
- 3 A:「お元気ですか。」  
B:「おかげさまで、元気です。」
- 4 A:「毎日 あついですね。」  
B:「おかげさまで、毎日 あついです。」

どっかい ぶんぼう  
読解・文法 Reading - Grammar (40点 20分)<sup>てん</sup>

もんだい  
問題Ⅰ ( ) に 何を 入れますか。1・2・3・4 から いちばん いい ものを 一つ えらびなさい。(2×4)

れい あさ  
(例) 毎朝、9時( ) おきます。

1 から 2 に 3 へ 4 で

(1) この りょうりは いい におい( ) します。

1 が 2 の 3 を 4 で

(2) ここは 夜 10時( ) すぎると、ほんとうに しずかに なります。

1 に 2 で 3 を 4 から

(3) 父から もらった パソコンを いもうと( ) こわされました。

1 で 2 が 3 に 4 を

(4) その しごとは、わたし( ) させてください。

1 は 2 が 3 に 4 を

問題Ⅱ \_\_\_\_\_ の ところに 何を 入れますか。1・2・3・4 から いちばん いい ものを 一つ えらびなさい。(2×5)

(1) きっぷを \_\_\_\_\_ ないように してください。

1 なくさ 2 なくす 3 なくせ 4 なくし

(2) かれは いつも おもしろい ことを いて、みんなを \_\_\_\_\_。

1 わらわれます 2 わらわせます 3 わらいさせます 4 わらわされます

(3) わたしが せんせいの にもつを \_\_\_\_\_。

1 お持ちます 2 お持ちになります 3 お持ちください 4 お持ちしましょう



(4) ふるい くるまでも、\_\_\_\_\_ <sup>か</sup> 買います。

- 1 きれいかったら 2 きれかったら 3 きれいだったら 4 きれいなだったら

(5) これは せんせいが わたしに おしえて\_\_\_\_\_ ことばです。

- 1 くださった 2 さしあげた 3 された 4 いただいた

**問題Ⅲ** \_\_\_\_\_ の ところに 何を 入れますか。1・2・3・4 から いちばん いい もの を 一つ えらびなさい。(2×2)

(1) さむい ですから、まどを\_\_\_\_\_ ください。

- 1 あいて 2 あけて 3 しめて 4 しまつて

(2) ここから <sup>とうきょう</sup> 東京まで 3時間 ですから、3時の 電車に のれば、6時 につく\_\_\_\_\_。

- 1 はずです 2 つもりです 3 ようにします 4 ことにします

**問題Ⅳ** \_\_\_\_\_ の ところに 何を 入れますか。1・2・3・4 から いちばん いい もの を 一つ えらびなさい。(3×2)

(1) A: ワインは いかがですか。

B: ありがとうございます。すこし\_\_\_\_\_。

- 1 めしあがります 2 いただきます 3 さしあげます 4 くださいます

(2) A: きょう、はやく かえらせて いただきたい んですが。

B: どうしましたか。

A: こどもが <sup>びょうき</sup> 病気\_\_\_\_\_。

- 1 から 2 からです 3 なんです 4 なんですから

**問題Ⅴ** \_\_\_\_\_ の ところに 何を 入れますか。1・2・3・4 から いちばん いい もの を 一つ えらびなさい。(4×2)

たなか: さとうさん、おはようございます。きょうも さむい ですね。

さとう : ほんとうに さむい ですね。ほら、あの こどもも、とても\_\_\_\_\_ (1)\_\_\_\_\_。

たなか: さむい 日<sup>ひ</sup>が つづいて いますから、会社<sup>かいしゃ</sup>でも、かぜを ひいている  
人が 多い<sup>おお</sup>ですね。

さとう : わたしも 先週<sup>せんしゅう</sup>、かぜを (2) 。

(1) 1 さむいです 2 さむがります 3 さむそうです 4 さむいそうです

(2) 1 ひいておきました 2 ひいてあります 3 ひいたことがあります  
4 ひいてしまいました

**問題VI つぎの 文を 読んで、下の 1・2・3・4から ただしい ものを 一つ えらびなさい。(4×1)**

[かとうさんの日記]

3月2日(火)はれ

今日<sup>けふ</sup>、社長<sup>しゃちょう</sup>に こんどの にちようび、パーティを しますから 1時に 家<sup>いえ</sup>に 来てく  
ださいと 言<sup>い</sup>われた。にちようびは 用<sup>よう</sup>が あるので 少<sup>すこ</sup>し おそくなるが、2じごろに  
は 行<sup>こた</sup>けると答<sup>こた</sup>えた。ほかに さとうさん、たなかさんも 行く よていだ。社長<sup>しゃちょう</sup>の お  
くさんや、お子<sup>あ</sup>さんたちに 会<sup>あ</sup>うのは 本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>に ひさしぶりだ。前<sup>まへ</sup>の 日<sup>ひ</sup>に デパート  
に 行<sup>い</sup>くので、そのとき ケーキを かつて、もつていこうと 思<sup>おも</sup>う。

- 1 パーティが はじまるのは 2時ごろだ。
- 2 かとうさんは、社長<sup>しゃちょう</sup>の 家<sup>かぞく</sup>族<sup>ぞく</sup>に 会<sup>あ</sup>うのは はじめてだ。
- 3 デパートに 行<sup>い</sup>くのは 金<sup>かね</sup>ようびだ。
- 4 パーティに 行<sup>い</sup>くとき、おみやげに ケーキを もつていく つもりだ。

もんだい 問題Ⅰ (1点×6)

例	問1		問2		問3	
	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)
<b>2</b>						

問題Ⅱ (1点×5)

例	問1		問2		問3
	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)
<b>4</b>					

問題Ⅲ (2点×3)

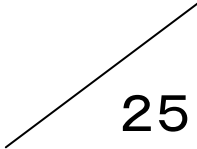
例	問1	問2	問3
<b>4</b>			

問題Ⅳ (2点×2)

例	問1	問2
<b>3</b>		

問題Ⅴ (2点×2)

例	問1	問2
<b>2</b>		

もじ・ごい・てん 文字・語彙の点

<b>25</b>

もんだい  
問題 I (2点×4)

例	(1)	(2)	(3)	(4)
2				

問題 II (2点×5)

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

問題 III (2点×2)

(1)	(2)

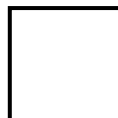
問題 IV (3点×2)

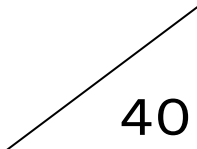
(1)	(2)

問題 V (4点×2)

(1)	(2)

もんだい  
問題 VI (4点×1)



どっかい ぶんぼう てん 読解・文法の点
 40

も じ ご い  
**文字・語彙** Writing-Vocabulary

かいとう  
**解答** Answer

テストが終わったら、<sup>うらめん</sup>裏面の解答を見て  
<sup>さいてん</sup>採点してください。

Check your score on your own using answers  
on the reverse side of this paper  
after completion of the test.

文字・語彙 Writing – Vocabulary 解答 Answer (25点満点<sup>てんまんてん</sup>)

問題Ⅰ (1点×6)  
もんだい

例	問1		問2		問3	
	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)
<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>3</b>

問題Ⅱ (1点×5)

例	問1		問2		問3
	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)
<b>4</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>4</b>

問題Ⅲ (2点×3)

例	問1	問2	問3
<b>4</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>2</b>

問題Ⅳ (2点×2)

例	問1	問2
<b>3</b>	<b>2</b>	<b>3</b>

問題Ⅴ (2点×2)

例	問1	問2
<b>2</b>	<b>4</b>	<b>3</b>

どっかい ぶんぽう  
**読解・文法 Reading-Grammar**

**解答 Answer**

テストが終わったら、裏面の解答を見て  
採点してください。

Check your score on your own using answers  
on the reverse side of this paper  
after completion of the test.

読解・文法 Reading – Grammar 解答 Answer (40点満点)

もんだい  
問題Ⅰ (2点×4)

例	(1)	(2)	(3)	(4)
<b>2</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>

問題Ⅱ (2点×5)

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
<b>1</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>3</b>	<b>1</b>

問題Ⅲ (2点×2)

(1)	(2)
<b>3</b>	<b>1</b>

問題Ⅳ (3点×2)

(1)	(2)
<b>2</b>	<b>3</b>

問題Ⅴ (4点×2)

(1)	(2)
<b>3</b>	<b>4</b>

問題Ⅵ (4点×1)

<b>4</b>
----------